

2007～2011年における女子大生の秋冬ファッションの変化

— 東京家政学院大学学生の場合 —

松本 幸子

近年の服装は、どのような変化があり、今に至るのかを見る為に、5年間でどの位の变化があるか比べてみることにし、2011年の服装と、2007年の服装との違いを検討することにした。

2011年の東京家政学院大学の学生の服装と2007年のファッション雑誌の資料をデータとして活用し、秋冬ファッションスタイルの変化を調査比較した。方法は、2011年は通学用服装の写真真を室内で撮影したものをデータとした。2007年はファッション雑誌による一般人の大学生を選択しデータとして、使用し検討を行った。集計の結果、5年間のファッションスタイルの変化は見られなかった。本学学生の傾向は、カジュアルスタイルが半数以上に多い傾向で、全体的に落ち着いたスタイルであることが分かった。

キーワード：ファッション 女子大生 スタイル 変化

はじめに

近年のファッションは重ね着などの着用が増えており、寒い季節でも薄手のものが見うけられる。

近年のファッションの傾向は、一般的に報告されているスタイルと社会状況を見てみると、2007年は就職難から男性に好まれるロマンティック系が多くなり、2008年は、ユニクロが売上過去最高を記録した年で、スポーツメーカーがファッションデザイナーと提携しスポーツとモードを融合したファッションが盛んになった年である。景気後退の影響から消費者の購買意欲に影響し平凡なスタイルにシフトした年でもある。2009年のファッションの特徴はゆるスタイル、アメカジ、ファストファッションが軸になり、ロック、ミリタリー、ワーク、男性っぽい着こなし、などがトレンドのキーワードになっており、男性的な部分を加えるのがポイントになっている。なお、ファストファッションは廃れることなく、続いている。2010年は、大手インターネット企業がファッ

ション業界に参入してきた年で、高級感を追求する銀座にあるデパートが、カジュアル化を取り入れ始めた年でもある。スタイルはふんわり、可愛い森ガールから山ガールそして、釣りガールなどが出てきている。^{1)～8)}

今回服装の変化はどのように移り変わりがあるのかをみる為に、東京家政学院大学（以下本学）学生の2011年秋冬のファッションスタイルと5年間にどれくらいの変化があるか2007年の服装と比較することにした。

方法

生活デザイン学科の基礎ゼミ及び生活デザイン演習Dの授業では、様々な領域から研究対象を見つけ、より良い調査方法を検討し、グループディスカッションを行う。さらに、他領域での知識をもつ他者との交流を通し、解析や分析も行なう。それらのプロセスを体験して、研究をまとめていく演習授業を行っている。その授業で学生が問題解決の為の一つの方法として、情報収集体験のため図書館に出向き、どのようなシステムで資料

が手に入れるかを実際に行った。その一部資料を活用し、近年の服装の変化をみる為に、本学学生の着用している服装にはどのようなスタイルがあり、分類することができるのか、通学服のスタイルを調べることにした。

調査方法は、2011年のファッションスタイルについては、12月一ヶ月に本学学生（年齢18歳から21歳）が大学の通学時に着用している服装を調査対象とし、全身又は首より下を室内で、写真撮影により資料収集することにした。さらに2007年のファッションは、本学の学生34人に普段読むことの多いファッション雑誌を複数回答で聞き取り調査を行った。方法は、メモ用紙を用意し、口頭で質問を行った。（図5）2011年秋冬の10月から12月の同雑誌類non-no, SEDA, mina, P.S, ViVi, Zipper, の6種類の10月号から1月号の中から一般人スナップ写真のページより、大学生のスナップ写真を抽出し、資料として、収集したデータを集計して検討を行うこととした。

結果

まず、2011年の写真データより、どのような種類、スタイル、傾向があるか検討し分類をおこなった。基本的な分類の資料としては、ファッション販売などアパレル業界で感覚・感度の言葉の意味からの表現として使われている分類がある。

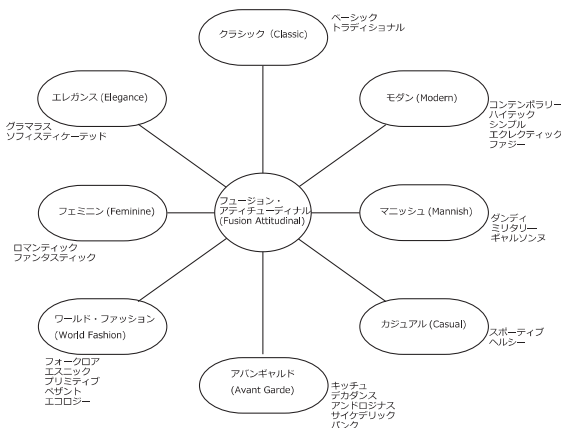


図1 ファッションスタイルのイメージ分類

図1の分類は、様々な方法がある中から、今回は写真データをもとに判断することから、イメージとスタイルを中心に分類する方法の感覚分類方法を採用した。アパレル業界にテキスタイルアドバイザーの資格を出している日本衣料管理協会が推奨している資料等をもとにして、分類模式図を制作し、分類した。データ数は40人である。その結果、フェミニン、カジュアル、マニッシュの3つのスタイルに分類された。もっとも頻度の高かったのは、カジュアルスタイルで55%、イタリアンカジュアルやアメリカンカジュアル、他にもヨーロッパンカジュアル、フレンチカジュアルなど様々な種類がある。多くは、アメリカンカジュアルの中のスポーツルックとキャンパスルック系のカジュアルスタイルである。そこには、ジーンズスタイルも含まれ、全体的に明るく若々しい感覚で形にこだわらず、動きやすいスタイルである。

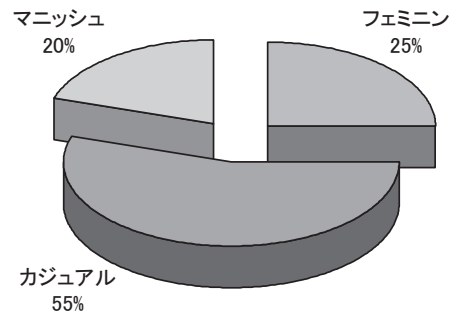


図2 2011年のスタイルの割合

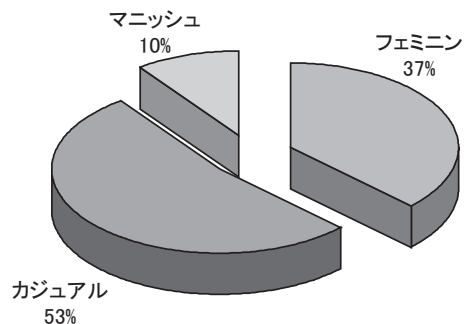


図3 2007年のスタイルの割合

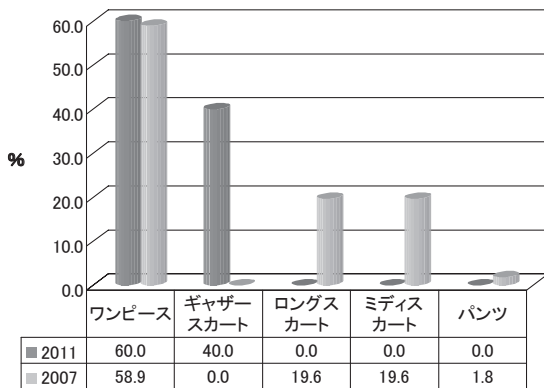


図4-1 フェミニンスタイルの内訳

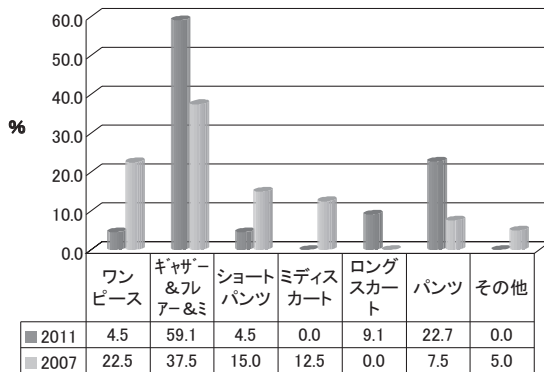


図4-2 カジュアルスタイルの内訳

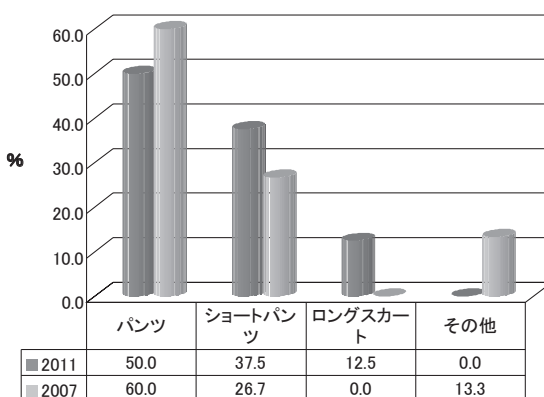


図4-3 マニッシュスタイルの内訳

今回の傾向は、女性らしさも加えたミニフレアスカートやショートパンツを着用していることである。さらにパンツにはスキニーパンツなど動きやすさも加わりカジュアルなスタイルとなっている。一部には、ワンピースとロングスカートが見られた。

次に頻度が高かったスタイルは、フェミニンスタイルで、優しさ、柔らかさ、エレガントな雰囲気、ロマンティックなスタイルで、女らしさを強調したスタイルで25%を占めている。これらは、ソフトな素材のシフォンジョーゼットのワンピースやスカートなどが多く、フェミニンスタイルの代表的なアイテムを着用している。頻度が低かったスタイルは、マニッシュスタイルで20%、一般的には男性服の魅力を女子の装いに取り入れたスタイルで、男物を身につけることにより、新しい女らしさを表現するというものである。単に男っぽいというのではなく、男子服のデザインを取り入れたもので、メンズ・スーツを思わせる細身のズボン、ジャケットにベスト、シャツを組み合わせたり、ネクタイを結んだりしたスタイルの事を言う。今回の傾向は、そこまで本格的なスタイルの取り入れ方ではなく、ボーイッシュに近いゆるみのあるパンツとダッフルコート着用者が多い傾向であった。

次に2007年の5年前の秋冬ファッションスタイルを調べるために、現在どのような雑誌をよく読んでいるか本学の学生34人に聞き取り調査を行った。その結果、一番多かった雑誌はnon-noが14.7%で次がJILLEとSEDAとminaとminiが5.9%と続き、次いで様々な雑誌が続いた。その結果、上位4雑誌を参考に、都立多摩図書館所蔵の2007年の雑誌から、non-no, SEDA, mina, 及びほかの数種類の雑誌を選択した。理由は読者対象者が10代後半から20代であり、さらに聞き取り調査に抽出された雑誌であることを考慮して選定した。合計6種の雑誌の10月号から1月号を選び一般人のスナップ写真のページより、記載事項の年齢と大学名などから大学生と確認される写真を選んで資料として集計と検討を行った。(図5)

その結果、2011年のスタイルと同様に、収集した151人のスタイル分類を行った。この結果2011

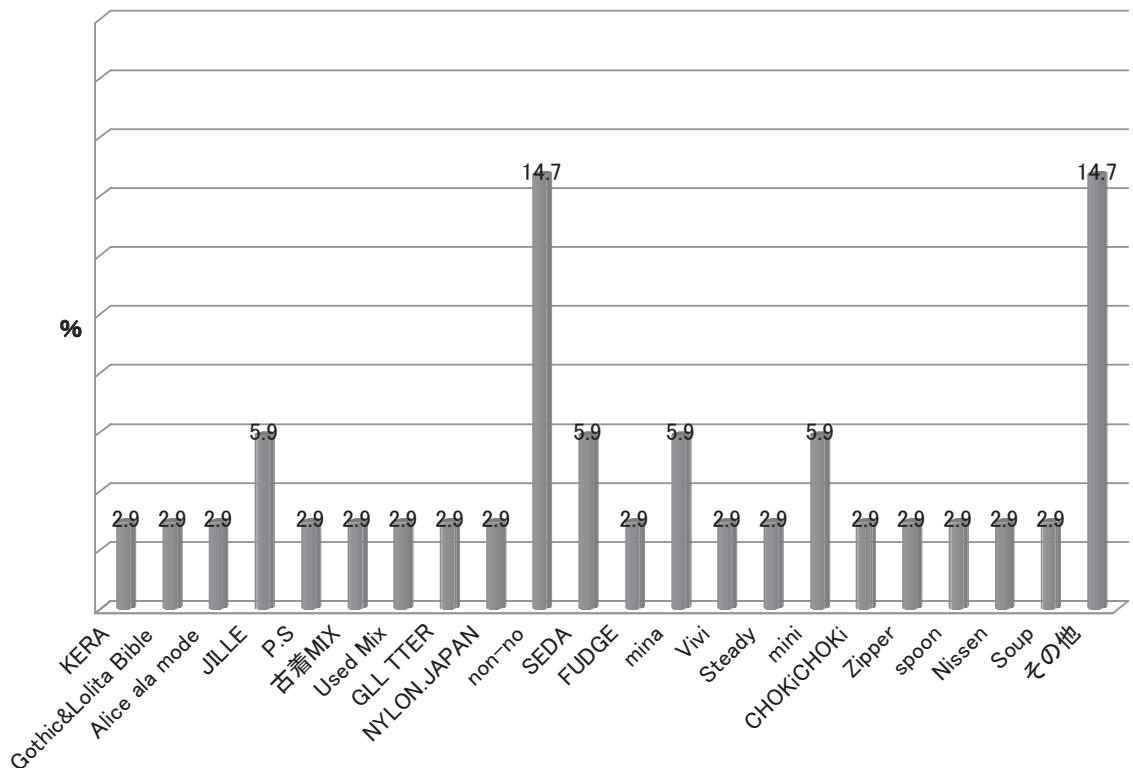


図5 ファッション雑誌の割合

年と同じようにフェミニン、カジュアル、マニッシュの3スタイルに分類ができた。カジュアルスタイルが、53%、次にフェミニンスタイルは、本学2011年の結果より12%増えフェミニンスタイルは、37%であった。詳細にスタイルの内容を検討すると、ワンピースが約60%であった。

2007年は不景気により就職難と言う理由で、お嬢様系は男性に好まれるスタイルと言われ、玉の輿に乗りたいたいという願望の現われと考えられていた。そこからモテ系（他力本願系）と言われるスタイルで、ロマンティック系（ロマ）とも呼ばれていた。フリルやレース使いのふんわりと女性らしいスタイルが流行していた時代の特徴がよくあらわれており、スカートもギャザーのマキシ丈のスカートも多く、素材もチュール素材やレース使いものも多くみられた。次にカジュアルスタイル53%は、膝上のギャザースカートやフレアースカート、タイトミニスカート、ショートパンツが多く、丈の長いパンツが少ない傾向であることが

分かる。最後にマニッシュスタイルは、パンツにはゆるみのあるものが多く、上着はジャケットを着用しているスタイルが60%と多い傾向であった。

考察

これらの結果を考察すると、両年代の傾向は、フェミニンスタイルでは、どちらもイメージを象徴する、ワンピースが多く、スカート丈が、ロング丈からミニ丈に変化が見られた。図6-1の服装色の出現頻度は、2007年・2011年両年代ともに、フェミニンスタイルのイメージ色の白ベージュ系が多い傾向であるが、本学は、ブルー系の落ち着いた色も多数を占めている。

2007年のカジュアルスタイルは、様々なアイテムが見られる。本学2011年では、ギャザー・フレアのミニスカートが60%近くを占めている。次に図6-2の服装色の出現頻度は、2007年がモノトーンやグレー系が半数以上で違いが表れ、2011年はブルー系が半数以上を占めている。次にマ

ニッシュスタイルは、どちらの年代もパンツ・ショートパンツスタイルが85%以上で多く、上着にジャケットやダッフルコート着用が大変多いスタイルであった。図6-3の服装色の出現頻度は、どちらもブルー系が多数であるが、本学では茶系もほぼ同じ割合を見せ、特徴が表れている。

本学学生のファッションスタイルの割合は、2007年に比べて、フェミニンスタイルは12%減り、マニッシュスタイルは10%増の変化が見られる。フェミニンスタイルの場合は、スカート丈がロング丈からミニ丈に変化があり、色は定番色にはどちらの年代にも変わりがなく、次に多い色を見るとモノトーン色からブルー系色と大きく変化が見られる。マニッシュスタイルは、どちらもパンツ、ショートパンツの割合が多くアイテムにあまり変化は見られないが、図6-3の服装色の出現頻度には、ブルー系から茶系色も二分するほどに表れている。

これらを総合的に判断すると、本学学生は、全体にブルー系の色合いで動きやすいカジュアル系が多く、活動的なアイテムを中心に落ち着いた服装が好まれていることが分かった。

この結果から5年間の変化をみると、両年代において、一番多いスタイルの割合は、カジュアルスタイルが多いことに、変化はなかった。他のスタイルの出現も特に見られることはなかった。3つのスタイルの中でのデザインの変化が見られ、フェミニンスタイルのギャザースカートの出現、カジュアルスタイルのミニフレアスカートやショートパンツの増加、マニッシュスタイルでは、パンツとダッフルコートが多数見られ、デザインに変化が見られた。

最後に、最近のファッションスタイルは、前にあげた学生が良く読むファッション雑誌を見てみると、近年カジュアルの中にも「カジュアルガーリー」、「ストリートガーリー」、「ガーリーカジュアル」など、様々なスタイルが出てきている。今回は、ファッション販売などの基本的な感覚・態度などから称される、図1のクラシック、モダン、マニッシュ、カジュアル、アバンギャルド、ワールドファッション、フェミニン、エレガントの分類方法を参考にイメージが類するものとして、3

つのフェミニン、カジュアル、マニッシュと大きく分類したが、もっと細かい特色をつかみ検討することが必要であると考え。さらに調査対象人数を増やし行う事も今後の課題である。

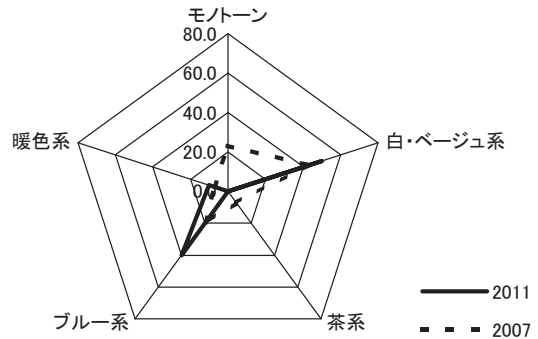


図6-1 フェミニンスタイル服装色の出現頻度

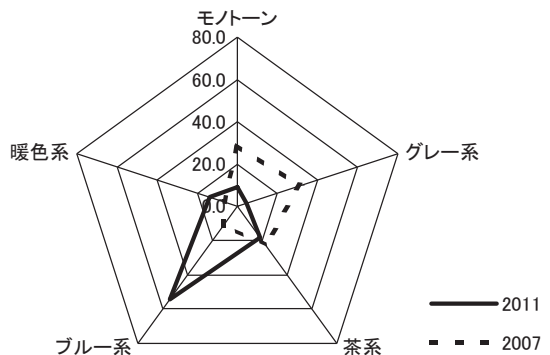


図6-2 カジュアルスタイル服装色の出現頻度

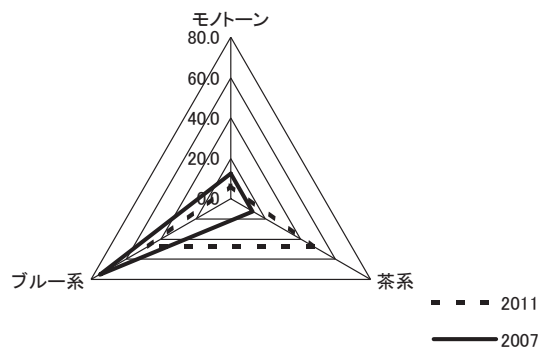


図6-3 マニッシュスタイル服装色の出現頻度

参考文献・資料

- 1) 「ファッション販売Ⅱ」 日本ファッション教育振興会協会 1999
- 2) 「ファッション辞典」 学校法人 文化学園 文化出版局 2011
- 3) 「アパレルデザインの基礎」 日本衣料管理協会 2004
- 4) 「被服デザイン・色彩論」 日本衣料管理協会 1983
- 5) 「ファッションがわかる本」 おうふう 2011
- 6) 「non-no」 12月号 集英社 2007
- 7) 「SEDA」 12月号・1月号 日之出出版
- 8) 「mina」 10月号・11月号・12月号・1月号 主婦の友社
- 9) 「S.P」 10月号・11月号・12月号 小学館
- 10) 「ViVi」 11月号・1月号 講談社
- 11) 「Zipper」 11月号 祥伝社
- 12) 「STYLE from TOKYO」 Discover21, inc 2011

引用資料

- 1) 「スタイリスト&コーディネーターの条件」 学校法人 文化学園 文化出版局 2011
 - 2) 「文化社会学の視座女性」 ファッション誌ポジショニングマップ 2008
 - 3) <http://color.kagennotuki.jougennotuki.com> (2011.11.19)
 - 4) <http://www.magazine-data.com> (2011.11.19)
 - 5) <http://color.kagennotuki.jougennotuki.com/colore/fashion-classification.html> (2011.11.20)
 - 6) <http://allabout.co.jp/gm/gc/373801/> レディースファッション：オールアバウト (2011.5.27)
 - 7) <http://nannohidonnahi.sakura.ne.jp/21seiki/2010/03.htm> (2011.5.27)
 - 8) <http://nannohidonnahi.sakura.ne.jp/21seiki/2008/03.htm> (2011.5.27)
-
- (受付 2012.3.27 受理 2012.6.4)